

希望に胸を膨らませて



▲在校生らに温かく迎えられて入場する新入生

市内の小中学校では、4月7日から9日にかけて入学式が行われ、新しく学校生活をスタートさせる新入生が希望に胸を膨らませて式に臨みました。このうち8日には、来年春に合川小学校へ統合する合川北小学校（佐藤洋子校長、児童数79人）の入学式が行われ、10人の新一年生が誕生しました。式では在校生や保護者、学校関係者が温かく迎えるなか、新入生が上級生に手をひかれながら、やや緊張した面持ちで会場の体育館に入場。新入生の点呼では、先生から名前が呼ばれると元気な声で「ハイ」と返事をしていました。今年度は、市内13の小中学校に208人、また、5つの中学校には238人が入学しました。

●市内小中学校で入学式

火災に備え一斉放水訓練



▲上杉農村運動公園で行われた合川地区の一斉放水訓練

春の火災予防運動が4月6日から12日まで実施され、市内各地でも一斉放水訓練や火災予防啓発活動、巡回広報チラシ配布、防火サイレンの吹鳴などによる運動が展開されました。6日には、消防ポンプ等の点検と技術の向上を図ろうと鷹巣中央公園、上杉農村運動公園、米内沢の阿仁川河川敷駐車場、阿仁湯口内内地内で一斉放水訓練が行われました。このうち上杉農村運動公園では、5つの分団員と消防本部職員が参加。団員らは、早朝の肌寒いなか、水路沿いに設置したポンプ車や小型動力ポンプを機敏に操作しながら、一斉放水開始の合図とともに公園の中央部に向かって放水しました。

●春の火災予防運動

陸上シーズンの幕開け



▲勢いよくスタートしていく小学生の部に参加した選手たち

今シーズンの陸上競技の幕開けを告げる第52回河田杯マラソン・大館北秋田ロードレース大会が、4月19日に市役所前をスタート・ゴールとする周回コースで開催されました。同大会は、長距離ランナーとして全国的に知られた旧鷹巣町出身の故・河田康雄さん（1909～1987）の遺志を継承し、次代を担う選手の育成と多くの方々にマラソンを楽しんでもらおうと開催されています。大会には、小学生から一般まで市内外から187人が参加しました。この日は、少し肌寒い気温でしたが、選手たちは沿道からチームメイトや家族らの応援を受けながら、日頃鍛えている健脚を競い合いました。

●第52回河田杯マラソン

国民文化祭で船を作ろう



▲市民ら約80人が、日比野氏のプロジェクトに耳を傾けました

講演では「山の中の造船所」船を作れば、何処かに行ける」と題し、射手座造船所」を制作した活動などを紹介しながら、今年秋の国民文化祭あきた2014で、北秋田市内に「魚座造船所」を制作することを発表しました。講演では「山の中の造船所」船を作れば、何処かに行ける」と題し、射手座造船所」を制作した活動などを紹介しながら、今年秋の国民文化祭あきた2014で、北秋田市内に「魚座造船所」を制作することを発表しました。

●日比野克彦氏講演会

山間に灯し先祖を迎える



▲多くの見学者が、残雪を照らし出す光景を楽しみました

春彼岸の中日にあたる3月21日、合川南地区の各集落で伝統行事「万灯火」が行われ、迎え火の明かりが残雪の山間を照らし出しました。万灯火は、「だま」と呼ばれている油を染み込ませたソフトボール大の布玉を、針金で支柱に結び付けて燃やし先祖をしのぶとともに、豊年満作、家内安全を祈願するものです。各集落では「ま」とび、「中日」、「大仏」の火文字や回転式の車万灯火など趣向を凝らした仕掛けも登場しました。また、幹線道路沿いに万灯火が設けられた鎌沢、摩当、三里、芹沢の各集落では、見学者が車を止めて、闇夜に浮かび上がる幻想的な演出に見入っていました。

●春彼岸の伝統行事「万灯火」

土産品としてイメージアップ



▲完成した包装紙を披露する日本バター餅協会の村井会長

日本バター餅協会（村井松悦会長）が作成を進めていたバター餅販売用の包装紙とリーフレットが完成し、3月31日に市役所でお披露目されました。村井会長は「この度、バタもっち愛女子会（あいこうかい）の協力を得て完成した。これが本家本元の北あきたバター餅だということを広く世間に知ってもらい、お土産品としてのイメージアップを更に広げていきたい」と説明しました。完成した包装紙は、表面に「田舎の素朴なスイーツ 北あきたバター餅」の表記、裏面にはバター餅の食べ比べを楽しむための販売店マップが掲載されています。また、リーフレットにはバター餅協会認定の11の製造者によるバター餅が紹介されています。

●バター餅の包装紙とリーフレット完成